

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

NPO法人

JAPAN NOW

観光情報協会

Non-Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報紙

第70号 発行日2010年3月29日

Contents

JN協会5月総会	1
四国フォーラムの内容	2
霞が関ニュース 台湾鉄道展	3
アメリカこぼれ話	4
食にまつわるエピソード コラム	5
城下町と観光、NEW SPOT	6
NPOからの提案、イタリア通信	7
お天気の話、編集後記	8



高松の栗林(りつりん)公園 築山を巧妙に配した大名庭園である

事業計画や役員改選案を協議

JN協会総会 羽生氏が講演

JN協会は1月28日の企画委員会で、平成22年度の総会を5月18日に千代田区麹町の海事センター8階会議室で開くことを決めた。3月30日には海事センターで理事会を開き、平成21年度の事業報告、決算案、22年度事業計画、予算案とJN協会の理事、監事の改選案を協議、総会に提案し承認を受けることとしている。

総会のあとの講演会で羽生次郎・元国土交通審議官は、オバマ政権が導入を検討している日本の新幹線やリニアなどについて「アメリカの高速鉄道計画」というテーマで講演する。講演会は無料。

盛況だった「大四国観光の魅力を探ろう」

田端、大島、須田氏が振興策などを提言

JN協会は四国ツーリズム創造機構（会長・梅原JN協会四国支部長）との共催により3月24日、高松市で「大四国観光の魅力を探ろう」（観光立国フォーラムin高松）を開き、講師の観光庁の田端観光地域振興部長、JAPANITALY.COM社の大島代表、JR東海の須田相談役が四国観光の現状や振興策を示した。来賓として真鍋香川県知事、大西高松市長らが出席し、知事らは「四国は一つの立場から国内外の観光客の誘致に努め地域経済を発展させたい」と述べた。参加者は約150名で、懇親会も開かれ盛況だった。（講演の内容は2面に）

八戸・新青森間の青い森鉄道事業を許可

国土交通省、12月の東北新幹線の開業に伴い

国土交通省は22年2月19日、東北新幹線の八戸・新青森間の今年12月の開業に伴い並行して走る八戸・新青森間の東北線をJR東日本の経営から分離して青森県が経営する「青い森鉄道会社」に移管することを許可した。営業距離は96キロで、駅の数20駅となり1日59本が運転される。

瀬戸内国際芸術祭2010開催へ

これで四国4県の観光イベント揃い踏み

「瀬戸内国際芸術祭2010」（アートと海を巡る百日間の冒険）が7月19日から10月31日まで、7つの島を中心に開かれる。主催は香川県知事を会長とする実行委員会。

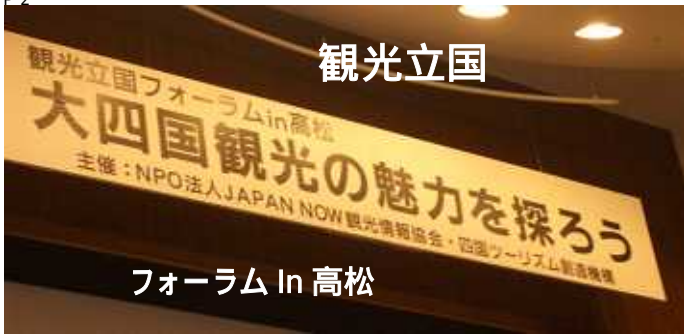
観光での地域振興を目指す四国4県は、愛媛県がNHKの超大河ドラマ「坂の上の雲」、高知県が「龍馬伝」、徳島県が朝の連ドラ「ウェルかめ」で、それぞれ観光客誘致に盛り上がっている。遅れてはならじと香川県は、鬼が島で知られる女木島など7つの島の魅力に現代アートを掛け合わせ、世界に発信しようという。ひいては、島の活性化につなげたいとしている。

これで、4県揃って観光客誘致のツールが揃ったことになる。

具体的な展示内容、イベント、料金等については、事務局（087-832-3123）へ、お問い合わせを！

会員の投稿を歓迎します

情報紙の充実を目指して！！ 観光情報紙2010年05月号への個人、団体会員の投稿を歓迎します(400～500文字程度)。皆様のご意見を、どしどしお寄せ下さい。詳細は事務局まで。発行は2010年05月25日。締め切りは05月10日。



訪日外国人観光客3000万人目指す 政府は経済成長戦略の柱に「観光」を置く 田端浩・観光庁観光地域振興部長

フォーラムのトップバッターとして登壇した田端部長は、次のように語った。



政府は、経済成長戦略の6つの柱の一つとして「観光立国の推進」を挙げ、2020年には2500万人の外国人観光客の誘致を実現、さらに3000万人を目標とするとしている。観光産業は、すそ野

が広く、経済効果と雇用創出に大きな力がある。

このため、その初年度に当たる2010年度には、観光関係の予算をほぼ倍増の126億円を計上した。これまでは順調に伸びていたが、2009年度はリーマンショックに端を発する世界不況で、700万人を割り込んでいる。しかし、政府としては アジア諸国を中心に重点地域を広げ誘致活動を強化する 休暇の地域分散化を進める 国際会議の日本での開催を増やす など、あらゆる方策を打ち出して、目標実現に邁進する決意を表明している。

私は、外国人に来ていただく重要性はもちろんだが、「来てください」というだけではダメで、日本から外国へ出ていく人も増やすべき、つまり双方向の交流が欠かせないと考えている。人と人との触れ合いが広がり、平和にも役立つと思うからだ。

四国に関して言えば、外国人の関心度や評価は、まだ低い。県別でみても、四国4県は下位に低迷している。観光庁はこのほど、全国で30の「観光圏整備実施計画認定対象地域」を決めたが、四国では2件である。

観光振興の推進には、官民一体となって努力することが大切だと考えている。その点、昨年四国の官民挙げての「四国ツーリズム創造機構」が発足したことは、大変心強い。4県の連携プレーで、四国の魅力を世界に向けて発信していただきたい。

処女地だから伸びが望める 遍路で培った「おもてなし」の心を武器に J R東海相談役 須田 寛氏

「四国の国際観光」というテーマで講演した須田氏は、国際交流という目で見ると、四国は処女地だと指摘する。だから逆に、地元の努力次第でこれからの伸びが大いに期待できる、というのが須田氏の

結論である。以下は、須田氏の提言。

地元でアイデアを打ち出し、積極的に観光客誘致に動き出して欲しい。4県の県都は成り立ちからみて、それぞれ特色があって、訪れると面白い。JR西日本の三都物語のような、「四都物語」(高松、徳島、高知、松山各市)を打ち出したらどうか。また3本の本四架橋は、新幹線が通る構造だ。新幹線の実現はムリとしても、その空間を遊歩道にするなりいくつかでも活用策があるはず。無数ある溜め池も、工夫すれば「溜め池巡り」コースだってできよう。

私が国鉄(いまのJR)にいたころ、四国ブームが起きたが、県別のカベが大きく国鉄が笛を吹いてもダメだった。今や「四国ツーリズム創造機構」という音頭取りができ、大いに期待している。

観光推進にとって重要なのは、ハードだけではない。ホスピタリティーが大切だ。幸い四国は、お遍路さんをもてなしてきた歴史がある。この蓄積は外国の人にも言葉の壁を乗り越えられる武器になる。知恵を出し合って、観光・四国を目指して下さい。

イタリアに学ぶこと

JAPANITALY.COM社 代表 大島悦子氏

イタリアのミラノに行って、20年になります。かつて日本とイタリアのコミュニケーション・ギャップが大きすぎると感じ、その狭間を埋めたいと、軸足をミラノに置きながら行ったり来たり、インターネットを使って努力してまいりました。



イタリアは、人口、GDPなど日本の半分程度の国ですが、観光に関しては日本より上を行っています。例えば、アウトバウンド(その国から他の国へ出かける人)はイタリアは世界6位と、日本より多いのです。入ってくる人(インバウンド)も、日本より多い。世界遺産が44カ所世界一という恵まれた環境にあることも大きな要因ですが、観光にとってプラスとなる点は、他にいろいろあります。

名所旧蹟、恵まれた自然(地中海の島々、山など)、伝統行事、食文化、数え上げればきりがありません。それにも増して感心するのは、休暇のことです。憲法で長期休暇を取得する権利が保証され、企業も春に夏休み向けの人繰り表を作るほどです。

さて、イタリアと四国の関係ですが、これが極めて薄いのです。姉妹都市の縁組を結んだところは、まだありませんし、あちらでの四国の知名度は大変低かったのです。ところが最近、直島でのベネッセによるプロジェクトが紹介されると、東京・京都・直島という観光ルートが出来ました。2009年には、全体では訪日者が減る中で、イタリアからの訪日客は増加率ナンバー1になっているのです。

これはチャンスです。四国の皆さんもこれを機に、いろいろと四国の魅力を発信して下さい。私も微力ですが、応援したいと考えています。

東京 電が関発の最新情報 国土交通省・総務省・財務省

街作りから観光に入り、観光庁の アドバイザーグループの一員として活躍する

YKK・YKKAP社長

吉田忠裕（よしだ・ただひろ）氏

富山県魚津市出身。1969年慶応大学法学部卒。72年ノースウエスタン大学経営大学院（ケロッグ）で経営学修士（MBA）を取得。同年吉田工業（現YKK）入社。企画室長、ファスナー事業部長などを経て85年副社長。93年現職。62歳。



- ファスナーや建材を作る会社の社長が観光問題に関係するようになったのはどんなことがあったのでしょうか？

まったく偶然なんです。私の工場は富山県黒部市にあり、その商工会議所の会頭になっていただきたい、という願いがありました。創業者の私のおやじの忠雄は「財界活動はしてはいけない」と言っていましたから断りました。ところがYKKさんとして、少しは地元貢献してください、という強い要請があり断りきれなくなりました。92年のことで当時商工会議所が502ある中で42歳で一番若い会頭になりました。条件として街づくりをやる、ということで就任しました。

- 商工会議所の中で街づくりについて活動をしたのですね。

金をかけないでどうしたらよい街づくりができるかをみんな話合いましたよ。私は東京に住んでいますから、話し合いのときはそうした線でまとめてほしいと言いつつなして帰ってしまいます。次のときにあの話はどうなった、という具合です。そうした話をまとめて96年末には商工会議所として黒部市長に提案書を出しました。その結果、「黒部街づくり協議会」ができて私が会長になりました。市民運動を始め、14のワークショップができました。こうした活動が認められて、当時の木村尚三郎・観光立国懇談会座長に呼ばれて話をしました。こうした縁で観光地の街づくりをしている人たちと知り合いました。

- YKKで産業観光をしている、ということですがどのようにしているのでしょうか？

富山県の石井知事が当選した時に挨拶に行ったら、早く工場を見学する産業観光を始めたいと頼まれました。どんな人が見たいと言っていますか？と聞くと中国や韓国などの人です。技術を見て本国で参考にしたいということでしょうね。ちょっと時間を下さい、ということで今の形のYKKツアーズというのを始めました。まず吉田忠雄記念室を見て専用のバスで工場を回って、丸屋根展示館でYKKの技術の歩みをみるという1時間30分のコースです。

- どの程度の観光客が来ていますか？

工場の視察で技術の人が嫌がりました。うちはファスナーの機械は自社生産なのです。だから見せたくないということになり、バスで回るということになりました。08年で年間1万5千人の人が来てます。

- 観光庁のアドバイザーグループとしてどのような発言をしていますか？

私は観光にはコンテンツ（内容）が重要だ、ということ

をいつも言ってます。外国人観光客の数を増やせばよい、というのではなくもう一度来たい、という気にさせることが重要だと思います。これからの観光政策は、日本へのリピーターを増やすにはどうしたらよいかでしょうね。

（聞き手は経済ジャーナリストの阿部和義）

台湾鉄道展

杉 行夫

昨年8月、台湾・羅東森林鉄道の汽車の写真展を雑司が谷の会場で3人の仲間と行った。そこから話は進展し、本年2月10日から約2ヶ月間、台北駅のコンコースで写真展「蒸情台湾」を開催することになった。後半の1ヶ月は羅東森林鉄道だが、前半は台湾鉄路局線縦貫線、同台東線、砂糖会社、炭鉱、阿里山森林鉄道等160枚の写真を展示した。

会期は下記の通りである。

2月10日～3月13日 台北駅 コンコース 台湾鉄路局線外

3月14日～4月13日 台北駅 コンコース 羅東森林鉄道

4月20日～5月16日 羅東文化園區 林趣館 羅東森林鉄道の予定である。

羅東は北東部に位置し、嘗ては鉄道で北を大回りしなければ行けなかったが、現在は中央部の山地をトンネルで抜ける道路が出来、台北から1時間弱で行けるという。

我国の海外旅行自由化が1964年に行われ、私が台湾を最初に訪れたのは、1966年2月のことであった。滞在は40日であった。その時に撮影した写真を中心に展示したが、例えば台北駅から南下する線は、北門で左にカーブし、中華路を、煙を上げて走っていたが、今は地下に入り、鉄道の姿を全く見ることが出来ない。駅も嘗ては上野駅の本屋に似ていたが、線路の地下化とともに、地上部分が大きくなり北に寄った。

駅の写真展会場は、南側のセブン・イレブンの売店そばにある、駅長室前の通路の両側で、長さ80mほどの所である。開催に合わせて図録が作成され、展示した写真全てが収録され、あたかも写真集を思わせる出来映えのものであった。

台北は天候にも恵まれ初夏の陽気であった。2月14日に春節を控え、日々賑わいを増しつつあるように感じられた。今年は辛亥革命から99年。来年、台湾は民国100年を迎える。



台北駅のコンコースで写真展「蒸情台湾」前にて

アメリカ・こぼれ話

「NBCの創始者デヴィッド・サノフとタイタニック」

JN協会理事 北村 嵩

1926年にNBCを設立し、ラジオを大衆メディアとして発展させたデヴィッド・サノフは1971年に80歳で亡くなるまで、NBC交響楽団の結成の他、テレビの開発やカラー化を推進し、衛星通信技術の土台作りにも貢献した実業家として有名だが、彼の出世の原点が豪華客船タイタニック号の沈没であったことは、あまり知られていない。

ロシアのモスクワで生まれたユダヤ人のサノフは1900年9歳のときに家族と共にニューヨークに移住してきた。新聞記者になる夢を抱いた彼はユダヤ語の新聞を売りながら、街のゴミ箱に捨てられた新聞を拾って英語を学び、やがて無線を発明したイタリアのマルコーニがアメリカに設立したアメリカンマルコーニ社に雑用係りとして働き始め、次第に有能な無線技師になった。1912年4月北大西洋上で氷山に衝突してタイタニック号が沈没した時に、同船から発せられたSOSをいち早くキャッチし、情報を伝えたのがサノフで、一躍注目されるようになった。

若い頃はサノフもマルコーニと同じように無線通信を1対1の通信手段としか考えていなかった。しかしサノフはそこから発展させて、これを1対複数、大衆への通信手段として考えるようになり、無線通信に新しい可能性を見出し、大衆

向けのラジオ放送につながっていたのである。

1919年、アメリカのマルコーニ会社を吸収して、ラジオを製造販売する会社RCAが発足したときに、会社と共に新会社に移ったサノフは同社の営業マネージャーに抜擢された。同社での活躍が認められて、1926年にRCAがラジオでの全国放送をするためにラジオ放送網を組織しNBCを設立した時に社長に就任した。設立直後は、音楽やスポーツ中継を中心に広がって行き、翌1927年、単独無着陸大西洋横断飛行を成功させたチャールズ・リンドバーグが歴史的飛行を終えパリから帰国した時その中継に成功し、全米3000万人に生放送したことでNBCの評判を確立した。

後にCBC, ABCと並び3大ネットワークと称されるNBCを率いたサノフは、RCAの技術と資本を背景に、激しい競争を勝ち抜いて、放送界で圧倒的な力を持つことになった。



The report of Rikkyo activities.

韓国伝統結婚式

Nuggets of Hospitality 麓 理沙

3月13日にお隣韓国で友人の結婚式に出席してきました。会場はソウル、都心の明洞から程近い戦争記念館というところ。ここには伝統結婚式を挙げる会場があり、今回の



挙式は韓国の王家に扮した宮廷結婚式で行われました。会場はもちろん、新郎新婦、さらにはスタッフまで伝統衣装を着込み、まさにチャングムの世界です。

開始数時間前から専門のスタッフと、式全体を取り仕切る現場監督が慌ただしく会場を作り上げていきます。さらには式のリハーサルやらスタッフの着替え等とても忙しく、気づけばもう本番となっていました。今回私たち含む日本人計25名は皆衣装を着せてもらい、新郎新婦扮する王様と皇后に控える女官たちとなりました。完成した舞台にそれぞれ配置され、旗や扇を持ち2人を迎えます。

式は王と皇后が入場し、招待客は皆カメラを手に晴れの舞台を収めんとそれぞれ思い思いのポジションに移動していきます。おもしろいのは招待客は式典のあいだ自由に移動したり、退席自由ということ。また写真を撮ることに熱心なのか、式の間だけでなく、終わった後も参列者、兄弟家族、友人と一緒に記念撮影の嵐でした。

このような伝統的宮廷結婚式は今では珍しく、なかなかお目にかかれないそうです。そのような式にまさか参列者として参加することができ、とても貴重な体験をすることができました。

日本唯一のホテル客室常備文化情報誌

JAPAN NOW

1985年の創刊以来、内外の多くのお客様にご愛読いただいた「JAPAN NOW」誌は、日英全文対訳で学校教材としてもますます高く評価されています。

今年4月に完成した2009-2010年度版は、日本全国のホテル約100館55,000室の客室に常備されています。



日本文化の再発見を通じて新たな観光資源を紹介し、現代日本を代表する執筆者やカメラマンたちによって日本の歴史といまを生き生きと伝えることが、「JAPAN NOW」誌の編集方針です。

2009-2010年度版も、2010年に遷都1300年を迎える奈良平城京に焦点を当て、日本文化と国家の原点を探

る第1特集と、古代以来の日本人とメディアとのかかわりを図版を中心に紹介する第2特集に加え巻頭インタビュー・ページでは、昨年ノーベル物理学賞を受賞した南部陽一郎氏にご登場いただくという、多彩な内容となっています。1部2000円(送料別)で購入できます。

お問い合わせは(株)ジャパン・ナウへ。

電話/FAX 03-3536-1751

【会員募集】

都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。

個人会員(1口5千円)、団体会員(1口5万円)

東京都渋谷区代々木1-58-13小田急代々木ビル3階

JANNOW観光情報協会(電話03-5304-9500)

食にまつわるエピソード

ドイツの春はシュパーゲル

大島 慎子

ドイツの春はホワイトアスパラガス、シュパーゲル (Spargel) で始まる。「食べられる象牙」ともいわれるシュパーゲルは、日本の筍のような季節の風物である。この季節になると、レストランには「シュパーゲル開始」のポスターが貼られ、マーケットの屋台には様々な大きさの白いアスパラが並ぶ。最高級品の頭部は白く締まっており、まっすぐで太さがそろったもので、長さが22cmほどで直径は16-26mmのもの。1級品はまっすぐで傷がなく、長さが17-22cmほどで、直径は12-26mm。2級品は傷がなければ外皮が多少茶色っぽいまたはピンクでもかまわない。品質によって1キロあたり5ユーロから10ユーロほどで売られている。ドイツの主婦は品定めをするときに、2本のシュパーゲルを軽く打ち合わせて高い音がでると、身が締まった新鮮なものと判断する。

収穫は4月の初めから6月24日までと決められており、この日は聖ヨハネの祝日である。ドイツではアスパラの種類は、白、紫、緑とあり、土をかけて遮光栽培したものがホワイトアスパラで土の中にあるときに収穫、先端が土から出て多少日光にあたったものが紫、そして地上で成長したものが緑である。さて、アスパラはワインと同じよう

にローマ人がもたらしたもので、ドイツ人はシュパーゲルにはジルヴァーナ品種の白ワインを味わう。

さてドイツ風の調理法であるが、水洗いしたら先端部を残して全体の皮をピーラーでむく。グリーンアスパラのつもりでそのまま茹でると筋がかたい。根元から2センチほどを切り落としてシュパーゲル専用の鍋に塩を1つまみ、砂糖を小さじ1-2杯いれて15分ほど茹でる。茹であがったらバターソースやソース、ホルンデーズ(卵黄とバター)をかけていただく。さて切り取った根元と外皮は、15分ほど煮てこし、クリーム状のスープやだし汁として使うので無駄はない。



シュパーゲルのシーズンにドイツに行く機会があれば、レストランで食べるのは勿論のこと、マーケットでキロ単位で購入して日本に持ち

帰って家で試すこともお勧めである。

私は午前中に市場で新鮮ものを買ひ、湿らせたキッチンペーパーに包んで新聞紙でくるみ、スーツケースに入れて午後1時にフランクフルトから日本に運んだことが何度かあるが、帰国して翌日くらいまでなら味もよい。土がついている野菜ではないので、植物検疫も問題はない。ただし、日本人の食卓には一人4-5本が適量である。

C O L U M N
ハプスブルグ家家紋

世界でも最も格式の高い王族・貴族のひとつ、オーストリア・ハプスブルグ家の家紋・エンブレムが「双頭の鷲」であることは、普く世間に知れ渡っている。あの勇壮な行進曲「双頭の鷲の旗の下に」も、その当時オーストリア・ハンガリー帝国軍楽隊長だったヨーゼフ・フランツ・ワーグナー(「歌劇王」リヒャルト・ワーグナーとは別人)が一族の永遠なる栄光と繁栄を願って作曲したものである。

15世紀オーストリア・ハプスブルグ家のマクシミリアン王子がスペインのイザベル女王の王女を娶ることによって、ハプスブルグ家はスペイン王家との絆を結び、広くヨーロッパ皇室の間に勢力を築いていった。この政略結婚が縁となり、現在もスペインの古都トレドの城壁入口にはハプスブルグ家の家紋が掲げられている。入り組んだ狭い石畳のトレド市内には、大聖堂、市庁舎ばかりでなく一般家屋の門柱など、そこかしこにハプスブルグ家の家紋を見ることができる。驚くには当たらない。何とこの「双頭の鷲」は、今ではトレド市の紋章にもなっているのである。これをトレード・マーク?という。

しかし、日本でこの由緒ある家紋にお目にかかれることは、そう滅多にはない。ミツコ(青山みつ)の夫・クーデンホーフ・カレルギー伯爵家にしてもハプスブルグ家と血縁関係はない。精々かつて女優として活躍した、鰐淵晴子の母親のルーツを追っていくとハプスブルグ家に辿り着くというエピソードがあるくらいである。ところが、思いもかけず静岡県御殿場市郊外の富士霊園の一角に眠るひとりの外国人の墓石に、高貴なハプスブルグ家の家紋が刻まれているのである。

二年前の晩秋、セルビアに住む友人が一時帰国の折り、彼とともに両親のお墓にお参りした。聞けば、クロアチア人だった父親の親族が、戦いの勲功によりハプスブルグ家からその名誉ある家紋を下賜されたのだという。彼の両親は今あの秀麗な富士を望む小高い墓地に静かに眠っている。それは、生前友人の母親が非業の死を遂げた夫とともに富士山をずっと見ていたいと望んだ、辞世の言葉を友人が律儀に守ったからである。

昨年「古事記」のセルビア語訳書出版により、日本翻訳家協会特別賞を受賞した友人・山崎洋は、父の姓を漢字に置き換えてペンネームを「武家利一」と名乗り、今も異国で翻訳家として活躍している。その父とは、戦時中「ゾルゲ事件」に関与した罪により獄中で亡くなったブランコ・ド・ブケリッチ、その人である。(近藤 節夫)

城下町と観光

蜂須賀家政が築いた徳島城

鳴門に赤穂に次ぐ大塩田を開発

JN協会参与 長宗我部 友親

徳島城は四国三郎といわれる吉野川の河口付近の中洲に建てられている。平城で、現在はJR徳島駅の北側に位置している。

初代藩主は蜂須賀家政で、天正14年（1584年）に、徳島城を築いて入城した。創建当時の徳島城は三階建ての天守閣を持ち、吉野川の支流である助任川、福島川、新町川などを自然の外堀として利用していた。徳島城址は現在は「徳島城跡公園」となっていて、四季の花々が咲いている。



徳島城の堀

蜂須賀家政は入城と同時に城下町の構築にも着手し、藍の生産や藍染めなどの産業政策も行っていった。

また、家政は藩内のそれぞれの要所に支城を築き、そこに家臣らを配置して城番とさせ、治めさせていく政策をとった。ところが、この城番となった家臣が、農村を知行地の形で治めるために、それぞれの地で力を持ち始め、いわゆる領主化してくるという問題が起こってきた。

このため、蜂須賀家はこの城番制度の改革を進めようとしたが、この問題が藩を揺るがすことにもなった。



庭園

また、蜂須賀家は徳島藩の産業政策として、塩田に目をつけて、現在の鳴門市にあたる撫養（むや）の海岸に、赤穂に次ぐ大塩田を開発し

た。塩方代官制度を設けて、藩は塩から租税を取り、藩の財政の助けとした。

教育面では10代藩主の蜂須賀重喜が藩校の設立を計画したが、実現せず、11代藩主の治昭の時代に、寺町に学問所が開設された。本草学者である小原春造によって医師学問所もできた。

蜂須賀氏は、もともと尾張の海東郡の国人で、家正の父の正勝は美濃の斎藤道三に仕えていたが、その後秀吉に仕官している。



ヴェスヴィオ火山の大噴火に埋もれたポンペイ遺跡

NEW SPOT

in japan

ポンペイ展

「ポンペイ展 古代ローマ文明の奇跡」が横浜美術館で3月20日から開催中だ。福岡市博物館で1月に始まり、横浜のあと6月以降、名古屋、新潟、仙台へ2011年5月まで巡回する。ポンペイの展示会は国内でよく開かれるが、今回はナポリ国立考古学博物館の全面的な協力で、出土品を中心に壁画、彫刻、工芸品、日用品など日本初公開を含む約250点が並ぶ。

イタリアから初めて国外へ出る銀食器約60点や、郊外の別荘に埋もれていた給湯システムと浴槽、その床面を飾ったモザイク画など、人びとの豊かな生活をいまに伝える。さらに、噴火犠牲者の型取りや遺品の展示も興味深い。これは京都にあった民間の元・古代学研究所によるポンペイ発掘調査隊1993年からの成果だ。

日本は弥生時代の、西暦79年8月24日、イタリア南部ナポリの東方、ヴェスヴィオ山が大噴火し南麓のポンペイや西麓エルコラーノなど街々が火山灰に埋もれた。18世紀半ばに発掘が始まって古代ローマ都市の姿を現した。今回の展示を見て、遺跡を現地に訪ねる日本人が一段と増えるよう期待したい。観光バスのパッキングツアーばかりでなく、国鉄ナポリ中央駅地下から私鉄ヴェスヴィオ周遊鉄道で45分の道中も楽しい。遺跡内はガイドを頼めばポンペイ通だ。

横浜展は2010年6月13日まで10～18時、木曜休み。金曜と4月29日（木曜でも開館）～5月5日は20時まで。（写真・文 林 莊祐）

「石見銀山市」論争

JN協会理事 加賀市長 寺前秀一

地域おこしに観光資源の集客効果が期待されるのは、地域の誇りが集客という現象で確保できるからです。合併により新しく誕生した大田市の初代市長の市政運営所信表明演説では「大田市に誇りと愛着を持っていただけたようなまちづくりを進めていかなければならないと考えております。また、石見銀山遺跡の世界遺産登録を間近に控える中、50年後、100年後を見据え、この世界に誇れる遺産を、時代を担う子どもたちにしっかりと引き継いでいかなければならないと考えております」(2005年2回定例会)と答弁しています。

地域資源の世界遺産化は国の史跡化を超えて運動目標として活用されます。国の史跡化は世界遺産登録の前提としての位置づけが強化され、文化財のヒエラルキー化の強化に使われました。石見銀山景観保全条例(2004年)も世界遺産登録に向けて円滑に制定されたのであります。

石見銀山に関わる世界遺産登録と大田市等の地元三市町の合併協議時期が重なっていたところから、新市名を大田市、石見銀山市いずれとするかで論議が行われました。合併協議会は委員投票で、石見

銀山市(15票)が大田市(11票)を上回り、新市の名称を「石見銀山市」とする案を決めました。しかし、これに旧大田市側が反発し、合併自体が危ぶまれる事態になり、新市を「大田市」として、遺跡が世界遺産登録されたときに「石見銀山市」を検討することで双方が歩み寄り、2005年10月に新大田市が誕生しました。

市長は、協定に基づいて市議会に検討を要請し、市議会は市名問題検討特別委員会において検討することとなりました。2007年市議会において「合併後2年が経過し、大田市の石見銀山遺跡として、マスコミ報道を含めまして、知名度も高まり、人気定着し、今さら、財政支出が伴います市名変更はいかがなものか」「世界遺産登録から外されることもあり、石見銀山も永久に保障されたものではない」等の理由が論議され、大田市のままで行くこととなりました。

2009年10月11日付けの毎日新聞によれば、任期満了に伴う2009年10月大田市長選に温泉川孝氏が「『石見銀山市』に改称を」として立候補表明したとありますが、選挙結果は現職市長の竹腰創一氏が16762票と温泉川孝の4051票を上回って当選し、市名問題に決着がついたということになりました。

イタリア通信 その13 ~訪日客の増加~

世界で最も訪日客の増加率の高い国に 2009年は前年比19.7%増

イタリアから日本への訪日者数は絶対数こそまだ少ないが、近年順調な増加を示している。

2009年は景気低迷の影響を受けて、世界各国からの訪日者数が前年比で10.6%減を記録する中で、JNTOの調べではイタリアからの訪日旅行者数(2009年1月-10月期)は前年同期比で19.7%増と大幅な成長を示し、世界で最も訪日客の増加率が高い国となった。2009年1-10月期のヨーロッパ諸国からの訪日客数は「観光客」については 英国94,979名前年同期比9.4%減、フランス82,112名 同5.1%増、ドイツ48,034名 同1.8%増 イタリア35,033名 同19.7%増。

2月18日から21日まで、ミラノ見本市会場で開催されたBIT2010(Borsa Internazionale del Turismo)に日本スタンドも出展し、4日間の会期中、数多くのイタリア人オペレータや市民が同スタンドを訪れ盛況のうちに終了した。イタリアからの訪日者数の増加トレンドに対応し、今年度よりイタリアはビジット・ジャパン・キャンペーンの対象国となったほか、BITを機に、イタリア語日本観光紹介サイトも開設された。

私自身、イタリアと日本を年間2-3回往復する生活を20年近く続けているが、かつては往復の機内はほとんど日本人ばかりだった。それが最近ではイタリ



ア人の姿が目立つようになった。

昨年の夏、そして冬の帰省時に2回とも、隣の席に若いイタリア人旅行者というめぐり合わせになった。夏は若いカップル、冬は兄弟友達3名でいずれも日本へのはじめての観光旅行(個人旅行)とあってわくわくし

ていてこちらまで微笑ましくなるほどで、地下鉄の乗り方や「旅館」の仕組みについて相談されたりと話はずんだ。これまでのような何か日本文化に特別造詣が深い人ではなく、最近では普通の人バカンスの目的地の一つとして日本を選んで、自然体で楽しむ時代になって来ているようだ。

新婚旅行に日本というカップルも最近のはやりのようだ。そして日本を訪れたイタリア人の日本観をきくと、「安全」「秩序」「清潔」「親切」というキーワードとともに「また行きたい」という答えが戻ってくる。

イタリアのバカンスシーズンは6月中旬から9月はじめまで。ちょうど今ごろから、人々はこの夏のバカンスの計画をはじめ。規模は小さいもののイタリアの「日本」ブーム、この夏どんな進展をみせるのか楽しみである。

JAPANITALY.COM社 代表取締役 大島悦子

二十四節気

立春、春分、立夏、夏至などの言葉を新聞やテレビなどで見たり聞いたりしたことがあると思います。中国から伝わり、古くから使用されている季節を表す用語です。

4月20日頃の「穀雨」は、冬期の冷たい雨から春の暖かい雨が降りだし種まきの頃です。この時期の長雨を「菜種梅雨」といいます。5月5日頃の「立夏」はそろそろ太陽の日差しに夏の気配を感じ始める頃です。7月23日頃の「大暑」は暑さの厳しい頃の意味で、梅雨の明けた地方ではざらざら照り付ける太陽にまさしく暑さ本番を感じることでしょう。8月8日頃の「立秋」は暦の上ではこれから秋になりますが、まだまだ暑さが退散する気配はなく夏の真っ盛りです。9月23日頃の「秋分」は昼と夜の長さがほぼ同じ頃ですが、九州では秋を代表するススキが開花するところもあります。また彼岸の中日にあたります。11月8日頃の

四季	二十四節気	四季	二十四節気
春	立春	秋	立秋
	雨水		処暑
	啓蟄		白露
	春分		秋分
	清明		寒露
	穀雨		霜降
夏	立夏	冬	立冬
	小満		小雪
	芒種		大雪
	夏至		冬至
	小暑		小寒
	大暑		大寒

二十四節気

気はなんとなく人間臭く、いつまでも大切に使用していきたい季節を表す言葉ですよね。

日本気象協会 金野雅之

会員名簿

(敬称略) (個人会員名簿は公開していません)

- 名誉顧問 : 松山善三(映画監督)
 理事長 : 松尾道彦(日本海事センター会長、元日本鉄道建設公団総裁)
 顧問 : 丹羽晟(前理事長、日本空港ビルデング顧問)
 副理事長 : 白澤照雄(JN協会事務局長)、岡村進(元小田急トラベル社長)、横山善太(株)JALUX特別顧問、大島慎子(筑波学院大学教授)、小竹直隆(元JTB専務)、須田寛(東海旅客鉄道相談役)
 支部長 : 片山文彦(新宿)、魚住隆彰(北陸)、麗理沙(立教)、長尾亜夫(九州)、須田寛(中部)、岩田弘三(神戸)、坂本眞一(北海道)、梅原利之(四国)、丸森仲吾(東北)、大田哲哉(中国)

【団体会員】(2010年3月29日現在)

AGC硝子建材エンジニアリング(株)、(株)朝日ネット、(有)アオバ、(株)アドバン、(株)アドルックス、荒井建設(株)、アソデス電気(株)、安藤建設(株)、イーエムティー(株)、池田煖房工業(株)、(株)伊勢丹、富山県射水市、(株)井六園ワールド、岩田地崎建設(株)、(株)H K Iアックス、(財)NHKインターナショナル、NPO「江戸城再建を目指す会」、(株)大林組、隠岐の島町(島根県)、(株)奥村組、小田急電鉄(株)、(株)小田急トラベル、鹿島建設(株)、鹿島道路(株)東京支店、大阪国際空港ターミナル(株)、(株)大塚食品、環境テクノス(株)、関西電力(株)、九城企業(株)、(株)九電工東京支店、九州電力(株)、九州旅客鉄道(株)、(株)キャンドゥ、(株)熊谷組、(株)グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄(株)、(株)耕人舎、佐川アドバンス(株)、(株)サマサタバ「サジャパン」ミッド、三協立山アルミ(株)、三普旅行社有限公司、四国電力(株)、四国旅客鉄道(株)、清水建設(株)、(株)JAL-DFS、(株)JALUX、(株)JTB、消音技研(株)、新菱冷熱工業(株)、(株)センインターナショナル、常盤興産ビルシー(株)、住友電設(株)、(有)西洋館センター、竹内印刷(株)、(株)銭高組、全日本空輸(株)、パーキングプロ(株)、セントラルリーディングシステム(株)、(株)ダイエーコンサルタンツ、第一交通産業(株)、第一資材(株)、(株)大気社、大興物産(株)東京支店、大成建設(株)、大成サービス(株)、大成設備(株)大成ロテック(株)、大成ユーレック(株)、大鉄工業(株)北陸支店、大日産業(株)、(株)高商、高砂熱学工業(株)、(株)竹中工務店、(株)丹青社、中国電力(株)、中部電力(株)、TCトレーニング(株)、(株)哲建、電研工業(株)、東海旅客鉄道(株)、東急建設(株)、東京急行電鉄(株)、東京国立博物館、(財)東京観光財団、東京電力(株)、東光電気工事(株)、東芝エレベーター(株)、東北電力(株)、トヨーケッツリレーションズ(株)、戸田建設(株)、名古屋鉄道(株)、西日本鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)西原衛生工業所、西松建設(株)、日墨ホテル投資(株)、日本オーチス・エレベーター(株)、(株)日本海コンサルタンツ、日本空港ビルデング(株)、(株)日本航空インターナショナル、(財)日本交通文化協会、(社)日本添乗サービス協会、(株)日本プラント建設、(財)日本ホテル教育センター、(株)ニューテック、ネスレ日本(株)、ネスレコンフィッショナル(株)、箱根町(神奈川県)、箱根建設(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)日立ビルシステム、(株)日立製作所、(株)ビッグウイング、広島電鉄(株)、福岡空港ビルディング(株)、(株)パロックスジャパンミッド、(株)フィールドサービス、富士機材(株)、藤長電気(株)、富士通(株)、プラネットワークス(株)、北海道旅客鉄道(株)、北海道電力(株)、北陸電力(株)、北海道空港(株)、(株)ホテル小田急、(株)ホテルメロポリタン、前田建設工業(株)、(株)ホテルマックス、マイナホールディングス(株)、(株)まるまんフィオーレ、三井住友建設(株)東京建築支店、三菱電機(株)、(株)山武ビルシステムカンパニー、有楽土地(株)、(株)USEN、横浜貨物総合(株)、横浜ビル建材(株)、(株)ランゲージネット、菱重輸送機エンジニアリング(株)、りんかい日産建設(株)

編集後記

民主党政権は「行政の官僚主導から政治主導への転換」を旗印に掲げて改革を進め、事務次官会議の廃止や官僚による記者会見の中止などが行われ、国民は一方的な政治的な判断で決められた改革に戸惑いを見せている。今度はその第二弾として今国会に国家公務員法改正案を提出し、「中央省庁の事務次官を部長級に格下げする規定を盛り込む方針」(担当大臣)とか。12名の事務次官は実質的には省庁内の人事権を持ち、行政方針を決済する立場にある。「企業には(大臣に相当する)社長のほかに事務のトップは置いていない」というのが、この次官降格計画の背景となっているようだ。しかし、中央官庁は出先も含めて民主党や民間企業よりもはるかに多い人員を擁しており、その舵取り役としての事務次官は必要だ。不当な人事が発令されれば、次官は辞めるだろう。

もう一つ不思議なことは新聞、テレビなどのマスメディアが政権側の方針を伝えるだけで、官僚側の意見や反発を意識的に無視して報道していないことだ。日ごろ「自由・公正・中立」を看板に掲げているマスコミのこうした対応はいかかなものか。政治主導の政権に楯突くと、特ダネが取れないとも思っているのかな……。不自由な時代になったようだ。(白澤)

特定非営利活動法人(NPO)

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます

JAPAN NOW
観光情報協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-13
 小田急代々木ビル3F
 電話 03(5304)9500
 FAX 03(5304)5632
 E-mail info@japannow.org
 Home page http://www.japannow.org

発行人: 白澤照雄(JN協会事務局長)
 編集長: 白澤照雄(JN協会事務局長)
 発行部数: 3000部 主な配布先: 会員、中央官庁、
 地方自治体、民間企業、マスコミなど